



行政視察報告書

令和 7 年 5 月 12 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 大山盛久 (印) 議員 西山博行 (印)
議員 山本聡 (印) 議員 (印)
議員 (印) 議員 (印)

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

住 所	兵庫県淡路市野島常盤 1510-4
電 話	0799-70-9082
視察案件	北広島町の農家（西原牧場）で見聞した事例の取組み依頼（社長との面談）
期 日	令和 7年5月01日（木） 13 時00分 から15時30分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり（ パソナ農援隊社長 田中康輔氏 ）
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	農家レストラン 陽燦燦（はるさんさん）及び周辺畑、宿泊施設

概要	広島県北広島町の西原牧場において見聞した事例（ 無臭化への取組等 ）のスキーム供給元であるパソナ農援隊社長の田中氏を表敬訪問し、“えがおの農法（ 水の素粒子化 / 液体家畜飼料水 ）を唱える花岡氏が取り組む第三の農業の実施状況、結果として牛舎内がほぼ無臭（衛生的）に保たれ、副次的に発生する糞をたい肥化し畑へ散布し、肥料としての有効性を、パソナグループが運営する農家レストランにて野菜メニューとして供給するスタイルを視察。また、淡路産の肉牛を液体家畜飼料で育成しブランド化を目指しており、食事のなかで提供いただいた肉質は柔らかく美味であった。 レストランの周辺に位置する11の宿泊施設はそれぞれ設計者が異なり、別々のコンセプトで作られたもので、来年春のオープンに向けて最後の仕上げにかかっていた。宿泊（連泊）することにより農家体験（畑仕事など）をより充実したものにするためのアイデアだと説明を受ける。 笠岡湾干拓地への導入に向けて、今後の取組み方法を協議する。 「小さく始めて、その効果を検証しながら進めていきましょう、」との田中社長の言質をいただく。 「市の担当部署の方が西原牧場へ行き、現場確認するのが早道です」とも。 田中社長、及び花岡氏の笠岡市への招聘も視野に、取り組み農家を募集することに。 西原牧場では生乳をいただいたが、今回は無臭化したたい肥を持ち帰った。 （ 西山議員所有 ） 以下、前回訪問時の文章のコピー 「 昨年（令和6年4月）より西原牧場が取り組み始めた乳牛の飲料水が乳牛本体へ及ぼす影響の確認。イオン化した水を飲むことによる糞尿のにおい低減及び糞のたい肥化がもたらす農作物への好循環の確認。花岡昭治氏処方による“天恵力プラス”の効果の検証が今後笠岡湾干拓地へ導入可能か見聞する。パソナグループ（パソナ農援隊）が所管する花岡氏スキームをパソナ農援隊が実地している現場（西原牧場）での意見交換が笠岡湾干拓地の臭気対策への足がかりとなるか、可能性をパソナ農援隊責任者神智実氏らと情報共有することにより確認する。」 （ パソナ本社 / 田中康輔農援隊社長との面談日時の打診 ）
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

住 所	兵庫県淡路市野島墓浦（ひきのうら） 8 4 3
電 話	0 7 9 9－8 2－1 8 2 0
視察案件	元小学校をリノベーションした観光複合施設の視察
期 日	令和 7 年 5 月 0 2 日（木） 1 0 時 0 0 分 から 1 0 時 3 0 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり 淡路市議会事務局に連絡、自由に見学を、
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	のじまスコーラ （ イタリアレストラン、カフェ、動物園 ）

概要	野島小学校跡を活用し、元々敷地内で飼っていた動物をそのまま動物園として引き継ぎ、校舎建屋とあわせて施設の一部として再活用した事業体の視察。建屋内部は物品販売、飲食施設を併用し、地元産品を中心に主に観光客向けのサービスを展開。校舎内部をリメイクし、トレンド感を演出している。
----	--

住 所	兵庫県淡路市尾崎 1 7 9 8
電 話	0 7 9 9－7 0－9 0 8 0
視察案件	元小学校を利活用したシェアードホテルの視察
期 日	令和 7 年 5 月 0 2 日（木） 1 1 時 0 0 分 から 1 1 時 3 0 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり 淡路市議会事務局に連絡、自由に見学を、
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	サキヤ S T A Y

概要	旧尾崎小学校校舎を活用し、シェアードホテル形式で運営。一階スペースにカフェを併設。一般観光客の取り込みも行う。主に宿泊客向け施設であるが、カフェへの誘客を通じてこだわりのコーヒーを提供し、差別化を図っている。
----	--

住 所	高松市香川町東下 899-1
電 話	080-1623-7772
視察案件	耕作放棄地を活用し、営農家として創業してきた手法を現地視察
期 日	令和 7年5月02日(木) 14 時00分 から14時30分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり (燠 敬夫 氏)
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	燠オリーブ農園 (オリーブ畑)

概要	11年前、高松の事業所(野村証券高松支店課長)を辞し、耕作放棄地であった茶畑を借り受け創業。オリーブ苗1,500本を植樹しオリーブ油を生産。ブランド化を図り現在に至る。創業時の苦労、及びオリーブ油に関するトレンド、当該植物(オリーブ木)の気候からの影響など伺う。
----	--